



雲青き

さいたま市立大成中学校 学校より

令和5年9月29日



最後まであきらめない勇気

校長 浅野克裕

「あきらめない勇気でプロ野球へ」入団し、後に日本代表としてワールド・ベースボール・クラシック（WBC）に出場した宇田川優希投手（以下宇田川選手）の話です。

高校時代の監督の話では、宇田川選手は、当時（埼玉県内の公立高校の出身）は、「エリートではない、至って普通の高校生」で正捕手、投手としては3番手の存在、人見知りで、自ら先頭に立ってチームを引っ張るタイプではなかったそうです。また、入学当初の宇田川選手の印象は、「覚えていない」位の存在だったと、当時は振り返られています。

当時、監督は、宇田川選手をはじめ部員に「でも、だって、どうせ、無理、できない」という言葉を口にしないように指導し、夢や希望を持たせる熱血漢溢れる指導をされてきました。甲子園出場を本気で目指し、全国優勝校や甲子園常連校などの強豪校相手に経験を積ませる中、宇田川選手が高校3年生の6月、運命を変える練習試合がありました。リリーフ登板し、8回13奪三振の好投を見せ、それが相手コーチの目に留まり、大学野球部の監督に話が伝わります。宇田川選手は、突然のオファーに戸惑いを隠せませんでした。大学への進学を決めます。そして、大学4年の時、プロ志願届を提出すべきか悩みましたが、高校時代の監督に「高校時代、何があっても最後まであきらめない勇気と無理という言葉捨てて挑戦していただろ」と声をかけていただき、プロへの道を切り開き、さらには、WBCの日本代表選手に選出されるまでに至ったそうです。

（参考：埼玉新聞スポーツより）

さて、明日（陸上は28日～）から、さいたま市新人体育大会が各会場で開催されます。2年生が中心になって初めての公式大会です。これまでの先輩たちからの想いも受け、最後まであきらめず、全力120%で戦ってきてもらいたいと思います。試合に臨む際は、決して弱気にならず、苦しい展開や状況の時こそ、声を出し、笑顔を絶やさず、仲間と心ひとつに頑張ってもらいたいと思います。あきらめた時に試合は終わってしまいます。相手は、同じ中学生。勝ちたい気持ちが強い選手（チーム）の方が、勝利に近づきます。『勇気・自信・努力 頑張れ大成中！』

10月24日（火）には、第23回さいたま市中学校駅伝競走大会が、荒川総合運動公園周辺コースで開催されます。部活を引退した3年生は、夏休みの猛暑の中でも積極的に練習に参加し、先輩たちからの伝統の襷（たすき）を繋ごうと努力しています。応援をお願いします。

10月28日（土）に、「合唱コンクール」が大成中の体育館で開催されます。私も担任時代は、合唱コンクールとなると、毎年、最優秀賞を目指して熱くなっていたことを思い出します。時には、情景を言葉で語り、時には、合唱曲に合った映像を観せて、その曲が訴えるものが何なのかを表現できるように様々な試みをしました。合唱には、クラスの仲間全員が「心をひとつに」、そして気持ちを込め、語ることが求められます。当日は、心をひとつに感動を与える歌声を体育館の会場いっぱいに響かせてくれることを期待しています。



◎庭に咲いた百日紅の花です➤

《生徒のみなさんへ》

最近、廊下などですれ違う生徒が、これまで以上に「元気に、気持ち良く、大きな声」で挨拶をしてくれます。この気持ちを大切に新人戦、合唱コンクール、駅伝競走大会等頑張らしましょう。